

はじめに

平成20年6月14日午前8時43分、岩手県内陸南部を震源とする大地震が発生し、県内では栗原市で最大震度6強を観測するなど、県北部を中心に大きな被害が発生し、県全体で死者14人、行方不明者4人、負傷者365人、住家被害1,902棟、被害総額1,095億円という甚大な被害を被りました。

近い将来に宮城県沖地震の発生が確実視されていることと、この地震の2日前には昭和53年に発生した宮城県沖地震からちょうど30年を迎えたことで、発災日の前には連日テレビ番組等で地震対策関連の報道がなされる中、県や市町村においては積極的に防災訓練が実施されるなど、県民全体の防災意識が高まっていた最中の出来事でした。

今回の地震は、発生が懸念されている海溝型地震ではなく、これまで把握されていない断層がずれたことにより発生した内陸直下型地震であり、これは、平成15年に発生した宮城県北部連続地震と共通しており、改めて大規模地震がいつ、どこで発生しても不思議ではなく、更なる防災体制の充実、強化の必要性を痛感した地震でした。

この地震の災害応急・復旧対策に当たっては、地震発生直後から多くの防災関係機関から多大な御協力と御支援をいただき、また、被災市町との協力によりこれまで着実に応急・復旧作業を進めてまいりました。また、県内外からのボランティアの方々や義援金等の提供などによる被災者への心温まる御支援は、生活再建に向けて被災された方々を励まし、大きな勇気を与えて下さいました。心から感謝申し上げます。

この冊子は、この災害を単に不幸な出来事にとどめることなく、防災体制や災害対策の実施状況を検証し、これを教訓として危機管理体制の充実強化を図るため、防災関係機関の御協力のもと、地震からの復旧、復興に向けた取り組み等の概要をまとめたものです。今回の災害で改めて浮き彫りとなった様々な課題の解決に向けて各方面において御活用いただき、切迫する宮城県沖地震等の災害対策の参考としていただければ幸いです。

最後になりましたが、この地震により尊い命を失われた方々のご冥福をお祈りするとともに、ご遺族に衷心よりお悔やみ申し上げます。また、被災された方々には心からお見舞い申し上げ、一日も早く生活が再建されますようお祈り申し上げます。

平成21年12月

宮城県知事 村井嘉浩